

REPORT

第5回 日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会を終えて

¹⁾岐阜薬科大学実践社会薬学研究室, ²⁾岐阜大学医学部附属病院薬剤部山下 修司¹⁾, 飯原 大稔²⁾, 鈴木 昭夫²⁾, 林 秀樹¹⁾

会 期: 2021年7月10日(土) 11:50~18:00

会 場: じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)〈オンラインとのハイブリッド開催〉

会 長: 林 秀樹(岐阜薬科大学実践社会薬学研究室)

テーマ: 東海・北陸から新時代のエビデンス

1. 開催概要

第5回日本臨床薬理学会東海・北陸地方会を2021年7月10日(土)に岐阜市のじゅうろくプラザにて開催した。開催するにあたり入場時の検温、手指および施設・物品の消毒の徹底、会場での座席の間隔の確保といったCOVID-19の感染拡大防止対策には十分に注意した(Photo. 1)。参加者は、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、栄養士などオンライン参加も含めて197名であった。本地方会では初の現地とオンラインのハイブリッド開催ということもあり、地方会ではあるものの全国各地から多くの皆様にご参加いただいた(Photo. 2)。

本地方会では、令和という新時代の、また、with/afterコロナ時代の臨床薬理のエビデンスを、東海・北陸から力強く発信する機会にしたいとの考えを踏まえ、「東海・北陸から新時代のエビデンス」をテーマとし、より多くの方が参加しやすいよう臨床薬理研究と薬物治療に関する実務それぞれのバランスを考慮しつつ、特別講演、教育講演、シンポジウム、ランチョンセミナー等を企画した(Table)。

2. 特別講演

特別講演(座長: 林秀樹(岐阜薬科大学実践社会薬学研究室准教授))は、安西尚彦先生(千葉大学大学院医学研究院薬理学教授)に「痛風・高尿酸血症と尿酸トランスポーター」としてオンラインにてご講演いただいた(Photo. 3)。ヒトおよび霊長類におけるプリン体の最終代謝産物である尿酸の「悪玉」としての側面だけでなく、「善玉」としての役割、尿酸の産生経路およびトランスポーターを介した排泄機序について解説していただいた。これまで安西先生らの研究グループでは、尿酸の取り込み口(管腔側に発現)である腎特異的尿酸トランスポーターURAT1とともに尿



Photo. 1 感染対策(入場時)



Photo. 2 ハイブリッド開催

酸の出口(基底側)となる電位依存性尿酸トランスポーターURATv1の遺伝子異常によっても、腎性低尿酸血症が惹起されることを明らかにした。これにより腎性低尿酸血症には、少なくともURAT1型とURATv1型の2種類が存在す

著者連絡先: 林秀樹 岐阜薬科大学実践社会薬学研究室 〒501-1196 岐阜県岐阜市大学西1-25-4

TEL: 058-230-8100 E-mail: hayashih@gifu-pu.ac.jp

投稿受付 2021年8月25日, 掲載決定 2021年8月27日

ISSN 0388-1601

Copyright: ©2021 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 第5回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会プログラム

ランチョンセミナー	11:50~12:50	旭化成ファーマ株式会社
「リコンビナントトロンボモジュリンの多彩な血管内皮保護作用」		
座長: 笠原 千嗣 (岐阜市民病院 血液内科)		
演者: 岡田 英志 (岐阜大学大学院医学系研究科 救急災害医学分野)		
開会式	13:00~13:10	
開会挨拶 林 秀樹 (岐阜薬科大学 実践社会薬学研究室)		
ご来賓挨拶 原 英彰 様 (岐阜薬科大学 学長)		
特別講演	13:10~14:10	
「痛風・高尿酸血症と腎尿酸トランスポーター」		
座長: 林 秀樹 (岐阜薬科大学 実践社会薬学研究室)		
演者: 安西 尚彦 (千葉大学大学院医学研究院 薬理学)		
教育講演	14:15~15:45	
座長: 山田 浩 (静岡県立大学薬学部 医薬品情報解析学)		
1. 「臨床における薬物動態プロファイル評価のポイント」		
演者: 大野 能之 (東京大学医学部附属病院 薬剤部)		
2. 「臨床薬理試験を含む医薬品の臨床試験を実施する際に留意すべき規制」		
演者: 浅田 隆太 (岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター)		
一般演題 ポスター閲覧・示説	15:45~16:35	
(オンライン会場 7月9日(金) 10:00~7月12日(月) 10:00)		
シンポジウム	16:35~17:50	
「新時代を切り拓く地域連携 ~遠隔医療・在宅医療における薬物療法~」		
座長: 鈴木 昭夫 (岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)		
シンポジスト		
1. 在宅医療は現場主義: 褥瘡を通して在宅現場へ行くことの大切さ		
演者: 塚田 邦夫 (高岡駅南クリニック院長/日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会)		
2. 地域に存在感を放つ薬局・薬剤師 ~地域に顔の見える薬局~		
演者: 加納 徹 (ウエルシア薬局株式会社 在宅推進部 在宅連携SV)		
3. 医療の前と後を支える地域作りを目指して ~コミュニティナースの役割~		
演者: 中村 悦子 (社会福祉法人弘和会 訪問看護ステーションみなぎ)		
閉会式	17:50~18:00	
優秀演題賞発表 表彰式		
次回大会挨拶 山内 高弘 (福井大学医学部 血液・腫瘍内科)		
閉会挨拶 林 秀樹 (岐阜薬科大学 実践社会薬学研究室)		

ることが予想されること、さらに URATv1 を標的とした新規尿酸低下薬創製が期待されることなど、これまでの研究成果に基づく興味深い知見をご紹介された。講演後、現地およびオンラインにて活発な議論が展開された。

3. 教育講演

教育講演(座長: 山田浩先生(静岡県立大学薬学部医薬品情報解析学教授))では、2つの講演が行われた(Photo. 4)。大野能之先生(東京大学医学部附属病院薬剤部副薬剤部長)より「臨床における薬物動態プロファイル評価のポイント」についてオンラインでご講演いただいた。薬物動態プロファイルの評価において「その薬物のクリアランスを支配している因子は何か、その変動要因は何か」を意識し、薬物のクリアランスの主要な場である腎臓と肝臓の寄与を評価することの重要性を実例に基づいて解説していただいた。また浅田隆太先生(岐阜大学医学部附属病院先端医療・臨床研究推進センター副センター長)より「臨床薬

理試験を含む医薬品の臨床試験を実施する際に留意すべき規制」について現地でご講演いただいた。臨床薬理研究を含む臨床研究を実施する際の遵守すべき規制の違いについて、臨床試験計画時のクリニカルクエストをリサーチクエストへと明確化し、その後FINERを用いて適切なプロトコルを作成するという過程において考慮すべきガイドライン(ICH E8等)について解説していただいた。

4. ポスターセッション

ポスターセッションでは、医療者、研究者、学生等から基礎、臨床研究だけでなく融合したテーマなど幅広い分野で16の演題が登録された。それぞれオンラインでのコメント活用と現地発表のハイブリッド形式で活発なディスカッションが行われた(Photo. 5)。

優秀演題賞選考に関しては、現地発表の演題を対象とし、実行委員を除く現地参加の日本臨床薬理学会東海・北陸地支部世話人等による投票を行った。その後、地方会



Photo. 3 特別講演風景（オンライン講演）



Photo. 4 教育講演風景（現地講演）



Photo. 5 ポスターセッション風景



Photo. 6 シンポジウム風景（質疑）

長が事務局スタッフと共に開票し、得票の多かった上位2名を優秀演題として選出した（同点があったため3名を選出）。優秀演題賞は、海野茜氏（岐阜薬科大学地域医療実践薬学研究室、「放射線治療を受ける子宮頸がん患者の制吐療法最適化を目指したリスク解析」）、天野美歩氏（静岡県立大学薬学部臨床薬効解析学分野、「COPD 急性増悪の予測マーカーとしてのマイクロRNAの有用性」）、田中紫茉莉氏（静岡県立大学薬学部実践薬学分野、「スルファメトキサザール/トリメトプリム配合剤含有グミ製剤の調製」）に授与された。

5. シンポジウム

シンポジウム（座長：鈴木昭夫（岐阜大学医学部附属病院臨床教授・薬剤部長））では、テーマを「新時代を切り拓く地域連携 ～遠隔医療・在宅医療における薬物療法～」とし、各職種の3名の演者（医師、薬剤師、看護師各1名）にご講演いただいた。

塚田邦夫先生（高岡駅南クリニック院長/日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会理事長）に「在宅医療は現場主義：褥瘡を通して在宅現場へ行くことの大切さ」についてオンラインで、加納徹先生（ウエルシア薬局株式会社在宅推進部在

宅連携SV）に「地域に存在感を放つ薬局・薬剤師 ～地域に顔の見える薬局～」について現地で、中村悦子先生（社会福祉法人弘和会訪問看護ステーションみなぎ管理者）に「医療の前と後を支える地域作りを目指して ～コミュニティナースの役割～」についてオンラインで、それぞれご講演いただいた。講演後、活発な質疑応答が行われ、新時代の地域医療において第一線でご活躍されている演者の先生方の取り組み、地域連携の重要性、種々の課題について理解を深めることができた（Photo. 6）。

6. ランチョンセミナー

地方会の開会に先立って、旭化成ファーマ株式会社の共催にて開催されたランチョンセミナー（座長：笠原千嗣先生（岐阜市民病院血液内科部長））では、岡田英志先生（岐阜大学大学院医学系研究科救急災害医学分野准教授）より「リコンビナントトロンボモジュリンの多彩な血管内皮保護作用」について現地でご講演いただいた。DIC治療薬リコンビナントトロンボモジュリンの抗炎症作用の他に、最新の研究で見いだされたヘパラン硫酸（血管内皮グリコカリックスの構成成分）の合成酵素の発現促進作用について解説していただいた。

7. おわりに

本地方会は、本来2020年に山内高弘先生(福井大学医学部血液・腫瘍内科教授)を会長として開催予定であったが、COVID-19の感染拡大のため開催を中止し、2021年の今回が第5回としての開催となった。なお、山内先生を会長とした第6回地方会が2022年に開催される予定となっている。本年以上の盛会となることを祈念するとともに、本地方会および本学会のさらなる発展を図っていきたいと考えている。

本地方会では、コロナ禍のため開催が危ぶまれる中、初のハイブリッド開催ということもあり、至らない点もあったかと思いますが、無事に開催できたことは支部世話人の先生方をはじめ、実行委員の先生方、関係各位のご協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。

最後に、本地方会において、大変興味深いご講演・ご発表をいただきました演者の先生方、座長の先生方、現地およびオンラインにてご参加の皆様、協賛いただきました各企業の皆様、共催、後援いただきました関係各位および運営にご協力いただきました岐阜薬科大学実践社会薬学研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。